

- ②「南アジア：域内協力と開発」ラケシュ・モハン（ICRIER）（代読）
- ③「中国：ITマネジメントと貧困削減」ファン・ガン（NERI）
- ④「東南アジア：自助努力とガバナンス」マリオ・ランベルテ（PIDS）
- ⑤「アフリカ：貧困削減のための課題：制度・教育・保健・農業・貿易」ドミニク・ニジック（AERC）
- ⑥コメント：モンテ・カセム（立命館大学政策科学部）

本シンポジウムは開発援助の観点から催されたものであり、国際政治、国際経済、国の制度や行政のあり方など一般に人口の分野では論じられないテーマも多かったが、現実の動きに立脚したものであり、興味深いものがあった。今後、人口ならびに社会保障分野との研究交流が進められることが期待されよう。（佐藤龍三郎記）

2002年度日本建築学会大会（北陸）

2002年度日本建築学会大会（北陸）は、2002年8月2日～4日の3日間にわたり、金沢工業大学（石川県石川郡）を主会場として開催された。「劣化と再生：地球・地域・建築・生命の新たな関係」をテーマに、学術講演のほか、シンポジウムや研究協議会、パネルディスカッション等多彩なプログラムのもと、多くの参加者により活発な議論が行われた。また、記念シンポジウムや講演会が金沢市内各所で開催され、会員のほか多数の一般参加者を迎え盛況であった。記念シンポジウムのひとつ「よい建築と環境をつくるために社会システムはどうあるべきか」のテーマ設定によく表れているように、本大会においては、ハードのみならず、ソフトの劣化・再生により大きな関心が寄せられている。

学術講演では、人口を直接にあつかう研究報告は少ないが、おもに都市計画部門において、土地利用との関連から、都心の人口動向、人口と就業者分布の予測、人口移動に関する興味深い報告があった。世帯や家族については、高齢期における家族と住まい方の変容過程をサポートネットワークという視点から分析したものが建築計画部門を中心に多数報告された。また、建築経済・住宅部門においては、世帯の成長過程や転居行動などに関する報告を集めたセッションが設けられ、住宅の地方性や自治体の住宅政策について議論が交わされた。筆者は同部門において高齢者の世帯変動の地域差に関する報告を行った。

大会を通して、計画分野においては、人口減少時代を見据えた建築・都市計画という姿勢がこれまでよりも明確に打ち出されている印象を受けた。人口減少社会への対応、サステナビリティなど、建築・都市計画の現場では新しい手法の模索が続いているようである。（小山泰代記）

第12回日本家族社会学会大会

日本家族社会学会（会長：石原邦雄・東京都立教授）の第69回大会（大会実行委員長：直井道子・東京学芸大学教授）が2002年9月21日（土）～22（日）の2日間にわたって小金井市の東京学芸大学で開かれた。初日の午前から2日目の午前にかけて2つのテーマセッションを含む12のセッションで40以上の研究報告がなされ、2日目の午後には「『現代社会における家族ならびに結婚の意味を問う』パートⅠ 現代社会における結婚の意味とは何か」と題されたシンポジウムが行われた。学問分野の

性格上、人口に関連する報告は多かったが、日本人口学会会員によるものとしてはそれぞれ別のセッションで以下の4報告があった。

子どもの家族環境の変化	坂井博通（埼玉県立大学）
女性の就業と出生関連意識	小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）
世帯構造と直系家族規範—近世東北農村の歴史人口学的分析	平井晶子（京都大学）
母親の就業継続と子育て支援	白波瀬佐和子（国立社会保障・人口問題研究所）

なお、2日目午前のテーマセッション（2）「日本・韓国における家族政策と親子関係」は韓国家族学会との交流事業の一環として行われたもので、韓国家族学会を代表して韓 慶恵・ソウル大学教授をはじめとする4人の研究者が参加された。また、2003年大会は9月6（土）～7日（日）に大阪府立大学で開催されることになっている。（小島 宏記）

日本環境経済・政策学会2002年大会

環境経済・政策学会（会長：佐和隆光・京都大学教授）の2002年大会（実行委員長：吉田文和・北海道大学教授）が2002年9月28日（土）～9月29日（日）の2日間にわたって札幌市の北海道大学で開かれた。今回は事実上の第7回の研究大会であり、初日の午前から2日目の午前にかけて11種類のテーマで27のセッションが行われたほか、「自由論題セッション」2つと「英語セッション」が行われた。また、2日目午前には学術的な報告からなるセッションとは異なるが、「ヨハネスブルグサミット報告会」も開催され、午後には市民公開シンポジウム「公共事業と環境保全」が開催された。

学会の性格上、人口に間接的に関連する報告は少なくなかったが、日本人口学会会員によるものは以下の3報告のみであった。

セッションD-2 「アジア及び途上国の環境問題（その2）」
5 中央アジアにおける母子の健康の環境関連要因 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）

セッションH-2 「エネルギー（その2）」
3 家庭部門の消費者が望む自然エネルギー導入と電力価格のトレードオフ
宮田史子（北海道電力総合研究所）／土屋智子（電力中央研究所）

セッションI-2 「環境政策国際比較（その2）」
6 環境保全に配慮した技術指数の試み 野上裕生（日本貿易振興会アジア経済研究所）

なお、2003年大会は9月27（土）～28日（日）に東京大学で行われることになっている。（小島 宏記）